

大正池

1915 年 6 月 6 日の朝、焼岳が噴火しました。アメリカの地質学者シドニー・パワーズは次のように書いています。「爆発は岩石、灰、泥、水蒸気、煙を吐き出し、ものすごい音の反響があった。上高地には灰が降り注ぎ、大規模な泥と岩の塊が急な斜面を下の谷に滑り落ち、川をせき止めた。」

このような激烈な始まりから、透明度の高い大正池が生まれました。清らかな水に映る焼岳や穂高連峰の姿は、上高地の象徴的な景観のひとつです。河童橋から池までは遊歩道が整備されており、リゾートエリアからも簡単にアクセスできます。道は湿地帯や森林の中を通り、片道約 1 時間の道のりです。70 種以上の鳥類を含む渓谷の野生動物を観察するには最適な方法です。

パワーズ博士の観察によると、「川の流れは、障害となっている（火山の）瓦礫を急速にすり減らしており、数年後には沼地だけが残るだろう」と述べていましたが、1 世紀以上経った今でも大正池は生き残っているだけでなく、再生可能エネルギーの生成に重要な役割を果たしています。湖の西端にある水力発電所の取水口は、周辺地域に水力発電を供給する沢渡近くの霞沢発電所に水を送っています。